

全国高等学校バスケットボール選手権愛知県大会で初優勝を果たしたバスケットボール部が「2019年11月5日(火) 中日スポーツ」にて紹介されました。

名女大高初優勝

全国高校バスケットボール選手権愛知県大会

全国高校バスケットボール選手権(ウインターカップ)愛知県大会男女決勝リーグ最終日が4日、名古屋市の名東スポーツセンターで行われ、女子は31年ぶり2度目の出場を決めている名古屋女大高が100-75で安城学園を下し初優勝。2年生の小河路理子がチーム最多の3点シュートを決めて全国に弾みをつけた。男子は中部大第一が桜丘を66-44で下し、2年ぶり7度目の優勝を遂げた。

小河路3点6本

重庄からの解放と優勝



優勝の喜びを観客席の応援団と分かち合う名女大高の選手=名東スポーツセンターで(末松茂永撮影)

への執着心。ほどよい緊張感がチーム、自身を勢いづけた。名古屋女大高の初得点を、3点シュートで決めたのは2年生の小河路。「昨日の試合はウインターカップがかかっている、夜も眠れないほど緊張した。でも、きょうは楽しかった。チームの目標も達成できた」と充実感をにじませた。前日で全国への切符は手に入れた。でも、緊張は切らさなかった。高校総体優勝で出場権を手に入れた絶対王者・桜花学園が不在の今大会。最初から「優勝しよう」と結束していたが、発奮材

料はもう一つあった。遠征先で仲良くなった県外の友人の学校は県大会で敗退。「お互いに出ようと言っていたから、代わりに頑張ろうと思って」と気持ちを込めた。「最初のシュートが入ってリズムに乗れた」と小河路。今大会、得意の3点シュートが毎試合1本にとどまっていたのがウソのように、この日は6本も決めた。前半終盤、佐賀主将らとの5連続3点シュートで突き放し、試合を決めた。昨年初出場の高校総体は初戦敗退。目標は全国ベスト8だ。「次はもっと緊張すると思うけど、きょうの緊張感を忘れずにやりたい」。この覚醒した今のまま、大舞台に乗り込みたい。(末松茂永)

※この記事及び写真は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。